春闘、三作労組の闘い

ついに〝スト〟で立つ

生産性向上運動はね返し

戦後の二・一ゼネストがアメリカ占領軍の命令で中止され、以降、公共企業体、公務員労働者はスト権は奪われてきた。

その間、ILOの勧告をもとにしたスト権奪還をめざし、四月二六日動労を先頭に国鉄、全逓、電通の公共企業体労働者が、一〇、四〇〇円の低額回答にたいして、七二時間のストライキに突入した。何といっても、このことが今年の春闘の第一の特徴であった。

さらに公務員労働者も、半日のストライキに突入。労働者と一般国民との連帯を強固にした。

そればかりではなく、田中自民党政府、ならびに資本主義の国民不在の物価高や企業の合理化のもとにおける不満が増大したことが、従来まで労資協調・生産性向上を唱えてきた〝全労〟の賃金闘争が、この春闘のなかに足並みをそろえながら、会社が儲かったなかから分配にあずかろうという、〝成果配分〟闘争に終止符をうって、労働者の生活に根ざした要求とストライキを構えて、たたかいにたちあがったのも、特徴である。

とくに大牟田地区における三池製作所の労働組合が、今回の春闘にかける決意とたたかいの経過は特徴を加実に示している。

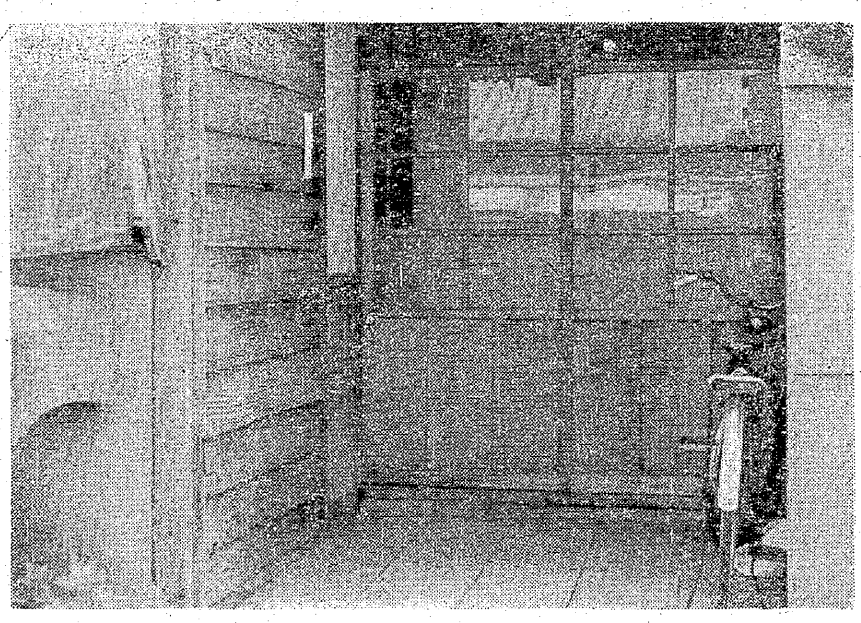
三池製作所の労働者（現在約一、五〇〇名）はかって三池闘争のなかで、『機械のことは機械屋でなければ解らない。炭鉱とは違うのだ』ということで、企業分離の合理化を受け入れ、三井資本の三池労組を分裂させる策動を許し、それ以来長い間、労資協調主義の運動にはしり、職場ではZD・QC運動をいち早くとり入れ、生産性向上のために取り組んできたものの、結果は、大牟田における三井の関連企業のなかにあって、炭鉱の低賃金を除けば最下位の、月の基準内賃金は、平均勤続年数は一六・七年、平均年令は三六才、扶養家族三人というのに六二、五〇〇円ということで、公休出勤、残業をしなければ食っていけない状態においつめられてきたことにたいする不満が増大したことが、従来まで労資協調・生産性向上を唱えてきた〝全労〟の賃金闘争が、この春闘のなかに足並みをそろえながら、会社が儲かったなかから分配にあずかろうという、〝成果配分〟闘争に終止符をうって、労働者の生活に根ざした要求とストライキを構えて、たたかいにたちあがったのも、特徴である。

とくに大牟田地区における三池製作所の労働組合が、今回の春闘にかける決意とたたかいの経過は特徴を加実に示している。

三井資産の低賃金の低賃金は、女性でも二十五年も勤続すれば十万円以上。炭鉱は私一人ですが、夫の男が五万円では、家内が黙して語らずとなるのも当然です。

新労の皆さんも、全炭鉱に先行妥結させぬように、激励の電報でも打ってもらったらどうでしょう。（宮浦・地底）

——生産会議の中で低賃金の実態を強調しました。それに対して副長いわく、「賃金は低くない。あまり高過ぎるので出勤が悪い」と。労働者を馬鹿にしている証拠で、この会社の姿勢が、日常作業の中で保安無視の労働強化を行ない、無法地帯をつくっているのです。絶対許すことができません。（三川・日刊みかわ）



鍵のかかっている社宅のとある家の玄関口
主人の給料では暮らしがたたず、たくさんの主婦たちが土方などの仕事へ出ている。

職場に渦まく声は怒り

春闘

春闘のうねりが大きくもり上がっているさなか、かんじんの新労組員も「この春闘で、うちの幹部どもは何しよるじゃいさっぱりわからん」と、さすがにがしさをかみしめているが、さて職場に渦まく声を職場新聞から拾えば……？

——炭鉱の賃金の低さは、恥かしくて話にはなりません。私は外来居住者ですが、隣り組の会議に家内がでても、会議が終って雑談になり、物価問題から親父の給料の話に進展すると、家内は黙して語らずに相成るのです。

大牟田の関連産業に働いている人たちの賃金は、女性でも二十五年も勤続すれば十万円以上。炭鉱は私一人ですが、夫の男が五万円では、家内が黙して語らずとなるのも当然です。

新労の皆さんも、全炭鉱に先行妥結させぬように、激励の電報でも打ってもらったらどうでしょう。（宮浦・地底）

——生産会議の中で低賃金の実態を強調しました。それに対して副長いわく、「賃金は低くない。あまり高過ぎるので出勤が悪い」と。労働者を馬鹿にしている証拠で、この会社の姿勢が、日常作業の中で保安無視の労働強化を行ない、無法地帯をつくっているのです。絶対許すことができません。（三川・日刊みかわ）

執行部まかせはダメ

許すことのできぬ副長の暴言

——世はまさに、週休二日制になろうとしている。それに逆行するように、年中無休を要求せねばならぬとは情けないが、日曜出勤や残業でやっと生活している現情ではやむを得ない。

たとえ今年の春闘で一万五千円上がっても、焼け石に水。その上五月五日の特定休日などで無給休日がふえれば、春闘でせっかく一万五千円勝ち取っても差し引きパーになる。

それより、体はきついが年中無休にして、そのために特休は五十日以上要求する。（三川・はぐるま）

——私たちの闘いは、大幅賃上げ要求に、三井鉱山の石炭部門の第二会社化＝分離問題、CO・遺族裁判などをかかえています。

分離しても労働条件はかわらない、と会社はいっていますが、会社は分離するとき、「労働条件を切り下げる。合理化をやる」などというほどバカではありません。

大幅賃上げを闘いとるとともに労働条件の改善、向上を具体的な要求としてつきだし闘いましょう。（四山・坑外）

〝日刊みかわ〟の一つが「そのために、会社まかせ、執行部まかせでなく、みんなでがんばりましょう」といっているところこそ、かんじんな点か。

厳しくなった出勤トクレイ

四山指導部・職場三分会新聞〝三本線〟によると、運搬など係員や世話方が毎日のように家庭を出勤トクレイして回るため、職場では「低賃金に仕事がきつく、一日も休もうぞつなかばってん、体がもてんとに」、との声が聞かれると。

私服刑事の目の前で守り抜いたスト

長崎　田中　尚

四月十四日は泊めてもらって、いろいろお世話になりました。

早くお礼の手紙を書くべきだったんですけど、春闘の諸行動のため遅くなったことをおわびいたします。

私たちの全逓は、十七日に全逓初めての年金スト（三十四時間）を打ち抜きました。

長崎では、長崎東局分会と雲仙郵便局の二局がストに入りました。私は、長崎東局のピケ要求として行きましたが、結果からいえば、無事に終わりました。

局側は途中で非常勤を使い、仕事（配達）をさせようとしたり、気勢をあげるため集会をやれば、それをやめさせるためスピーカーで「局長の命令です。解散しなさい」等々、何回となくいってきました。

まわりには、私服刑事が数名私たちの行動を見ています。

こんな中で、応援にかけつけてくれた大村支部、諫早支部など、他の地区の仲間が見守る中で、無事二十四時間ストを打ち抜くことができました。これから第三波、第四波と敵政府・独占を追いつめながら、スト権奪還、大幅賃上げ獲得、時短等々の要求をかかげがんばります。

話を元に返しますが、三池労組の平均年令が四十五才前後であると聞いたときはびっくりしました。私たちの職場では、そんな年令の人は、デモや集会にさえも参加しません。

「オレは昔、労働運動をバリバリやったんだから、いまは若いもんが先頭に立ってがんばらんば」という顔をしています。

会社は、新労に入るという条件でしか入社させていないとかで、平均年令四十五才でがんばっていられる三池労組の人たちに対して私のできることは、三池で学んだことを職場に持ち帰って、それを実践したいということだけです。

それには日常的な職場闘争、学習活動が必要なのはいうまでもありませんが、あせらずゆっくりいこうと思っています。

本当に、ありがとうございました。小学五年生と中学三年生の男のお子さんに、お世話になりましたといって下さい。よろしく、といって下さい。

×

田中さんは、四月十四～十五の両日、一泊二日の日程で行なわれた〝大分・長崎三池に学ぶ集会〟に参加された人で、お住居は「長崎市滑石町一七〇六―七、郵政独身寮内」です。臼井地域分会の平田光男さんへのお便りです。

火花

詩　仲間

大阪　中尾郷次

春になり桜が咲く頃
三池で仲間と共にスクラム組み
共に歌った　あの
感激を思い出します

夏になり
太陽がギラギラと目を刺す頃
地下三百メートルで働いている
三池労組の人達の　力強い
太い腕を思いだします

秋になり　もみじが紅くなる頃
三池の主婦が造って下さった
暖ったかいごはんを　そして
家庭の暖かさを思いだします

冬になり　雪が降り
北風が吹く頃
国家権力と闘っている
三池での集会に参加した
多くの〝まなぶ〟の仲間のことを思いだします

二月十六日
寒くはない暖かい空を見上げると

雲の隙間から　ちょっぴり
青空がのぞいていた大牟田の
あの日を思いだします

×

筆者は全逓大阪枚岡分会所属。

広がる三池の火

いま、今年の〝第十回三池に学ぶ全国集会〟に参加し、それぞれの職場に散っていった若い仲間たちから、ぞくぞく〝報告書〟が本部や指導部、あるいは地域分会や個人の組合員あてに送ってきています。編集部の手もとに集まったものでも少なく、特に香川県からの参加者たちが発行した報告集〝みいけの炎〟など、すでに七号を数えているほどです。

また去る八日の、長崎県評の青婦協主催の〝七三年春闘勝利、青年婦人総決起うたごえ祭典〟には〝長崎CO患者を守る会〟が構成劇〝みいけの火〟をつくって出演しましたが、その脚本も送ってまいりました。こうして三池の火は広がっています。